

# 変わらないもの

湘南白百合学園中学校 3年

さいじょう ゆいか  
西條 由佳

新型コロナウイルス感染症による外出自粛によって私たちの生活は大きく変わった。企業は在宅勤務へと変わり、自宅でリモートワークをし、「働き方改革」が急速に進んだ。通勤時間がなくなることで、業務効率化による生産性の向上がある一方、生活面ではプライベートとの境界線が明確でなくなり、長時間労働になる懸念がある。

学生も大きく変化した。三月初旬に政府が全国一斉休校を要請したことで、大人よりも早く自粛生活をするようになった。私の学校も登校を控えオンラインで授業をスタートすることになった。初めてオンライン授業をしたときは、自分のペースで勉強を進められることに喜びを感じた。授業でわからない問題が出てきたときは動画を戻して何回も解説を聞くことができる。毎朝同じ時間に起床し、パソコンに向かう。朝食を取り、クラス全員が参加するオンライン朝礼に出席した後は、決められた時間割で授業を視聴し決められた課題をこなす。その繰り返しだ。通常の学校生活と一見変わりはない。通学時間もなければ天候に左右されることもない。家の手伝いや夕食作りなどしたが、全て自分のためだけに時間を使っている感覚で、私はオンライン授業の生活、自粛期間を快適に過ごした。ずっとこのままでいいとさえ思った。

「学校」とは一体何をする場所なのか。ふと自分の中で疑問が湧き上がった。オンライン生活を満喫していた私だったが、きっと何か足りないと思ったのだろう。学校は勉強する場所だ。しかし授業をするだけが学校生活だったら自宅でのオンライン授業となにも変わりはない。授業と授業の間のたった10分の休憩でも、友達と昨日あった面白いことを話し合ったり遊びに行く計画を立てたりして、私はその短い時間がとても好きだったんだ。一人で黙々と課題をこなすことが勉強の全てではないことに気がついた。出会いや対話、違うクラスの友達とのほんの数秒交わす言葉、廊下で部活の先輩に出会う緊張感、そんな瞬間にこそ、学校生活の魅力がある。そして授業とは様々な出会いによって作られる。自分とは異なる意見や

価値観に出会い、先生が何気なく話した思わぬ話が記憶に残る。学校はコミュニケーションを育てる場所であり、人間が生きる社会を学ぶ場所。

オンライン生活の中で何度か数名の先生とメールで連絡を取る機会があった。初めはなんて書いたらいいのか、どのように返信したら失礼ではないのかなど、色々調べながら返信の文を打ったので相当な時間がかかった。何となく怒っているかのように文面から読みとれる先生、気さくにメールをくれる先生、先生によって様々だったが私が作成した文章がとても味気なく、気持ちがどうしても文字に乗せられなかった。対面で話せばもっと簡単に相手に伝えられるのにな、と思った。メールで目上の人に送る文章も、社会に出るためには必要な勉強だ。しかしそれは対面でのコミュニケーションができた次の段階の勉強なのではないか。私は何か難しさを感じながら先生へのメールを作成した。

私は今まで学校、テスト勉強、課題提出、部活動、習い事で毎日時間の余裕なく過ごしていた。しかし、「学校の新しい生活様式」ができたように新型コロナウイルスによって私たちの学校生活は大きく変わるだろう。行事の中止、修学旅行の変更、部活動さえ思い通りにできない日々が続くだろう。しかし友達とおしゃべりや他愛も無い会話は「学校」に行けば前と変わらずできる。自粛期間中の不自由で自由な時間があったから分かった。私にとってこの時間こそが今とても必要な時間なのだ。